

大道芸通信

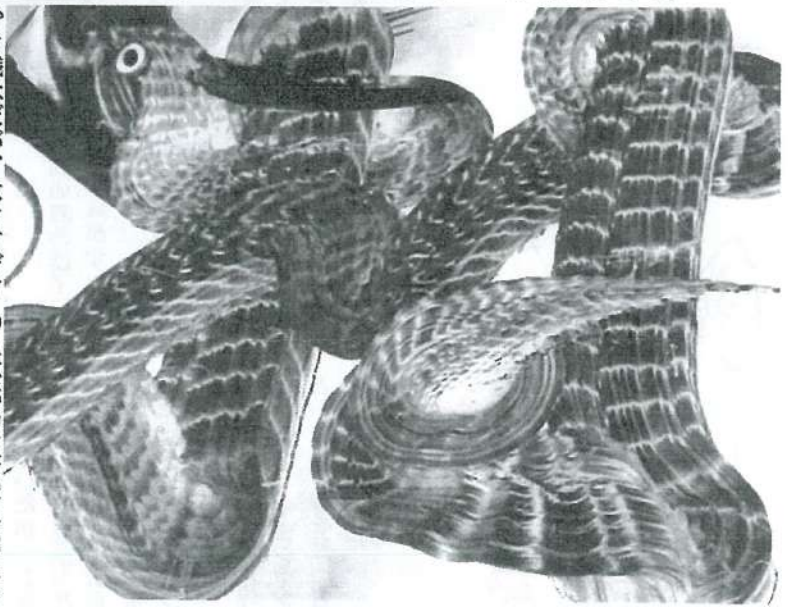
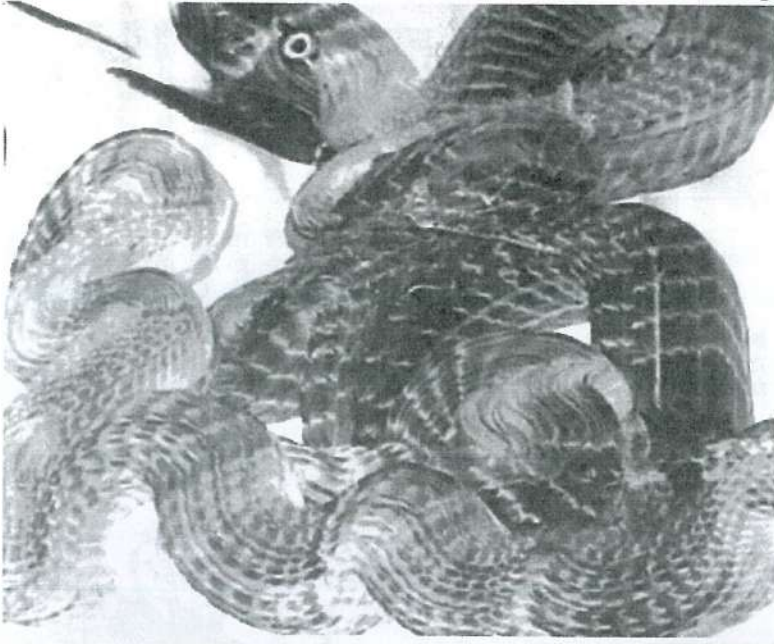
編集発行/日本大道芸・大道芸の会 光田 憲雄 (daidogeikib.biglobe.ne.jp) http:// daidougei.seesaa.net

道成寺境内での一筆龍

和歌山県御坊市の道成寺と言えば「安珍清姫」の舞台として大抵の人が知っている。また今も「絵解き」が行われていることを知っている人も多い。以前聞きに行った際、あまりの名調子に感動したこともある。その道成寺境内に昭和四十七、八年（一九七二、七三頃）、「一筆龍」を生業としていた人がいたようである。

昭和四十年代後半は、生業としての大道芸がからうじて姿をとどめていた時期と重なる。歴史的にも貴重な証言である。現在も一筆龍伝承を続けている仲間の佐藤文幸師からその話を聞いたとき、「是非見たいものだ」と伝えたら、写真を貰った。それが左記の写真である。

現物の所有者は、北杜市の 得たので複写公開するもの道村氏である。本人の了承を である。全体図でないのが



少々残念だが、大きすぎての人は氏名を書いて貰った一枚では治まり切れんから、多く残っているのである。たようである。私が預かった 話は変わるが、私がはたままを僅かにトリミングじめて一筆龍を見たのは、したのは、目の輝きと蛇紋 小学生のときであったからやなく五十貨店です」と馬鹿（鱗模様）を見て貰ったかった 昭和三十年（一九五五）前後にしゃがったから余計覚えてからである。今見ても途中である。場所は小野田（現太）で途切れることなく一筆で 平洋）セメント発祥地で、当たか。今度来たときは何にも書き上げられていることが 事本社があった、山口県小ないかも」と少々感傷的になよくわかるようである。 野田市（現山陽小野田市）のり、陶淵明の『歸去來辭』の加えて、一筆龍は注文者の セメント町商店街である。一節「田園將に荒れんとす」希望する文字を書いてやる 買えるはずのない（小遣いで 田園ではないが、全く面影すのが特徴である。

道村氏所蔵の一筆龍も上た）子供は「後ろへ下がってはなんじゃ。シャツター街なは「道村」つまり所有者・ 何時も一番前で見ていた。道村氏の名である。大抵 そんなセメント町へ先日、地になるか。嗚呼！

五十年ぶりに行ってみたら、商店街どころか町がなかった。気がつかないまま通り過ぎていた。そこで改めて記憶を頼りに見当をつけ、逐一通り名を確認しながら歩いた。果たして、「セメント町〇丁目」と書かれた住居標を見つけたことが出来た。

「ナニコレ」、「うそじゃろ」そう言いたくなるほど、まるで記憶にない通りであった。商店どころか民家も歯抜けのようである。何か痕跡はないかと更に探したら、大きな鹿屋の壁に「たちばな」の看板を外した痕跡の残る建物があった。当事「たちばな百貨店」と呼ばれていた商店街随一の大商店の跡地である。

学校の授業で百貨店の話が